

働き方改革
時代に

よろこび・誇り・問い・使命感

保育の「内発性」をどう支えるか — 制度と実践をつなぐ新たな方向性を探る —

2026年3月15日（日） 13：00-17：00 （開場 12：30）

福武ラーニングシアター・オンライン ハイブリッド開催

参加費無料 事前申込制（会場先着100名、オンライン先着1,000名）

現在、保育者の処遇改善や働き方改革が進められ、業務の合理化・効率化、負担軽減が進んでいます。これらは基盤整備として不可欠な取組です。しかし一方で、**よろこびや誇り、問いや使命感**といった保育の営みを内側から支える「内発性」が空洞化しているのではないかとこの危惧も生まれています。処遇改善や業務軽減はきわめて重要な条件整備ですが、それ自体が直ちに内発的動機づけを生み出すわけではありません。

第Ⅰ部では、保育現場からの実践報告を通して、**保育者としてのよろこびや誇りがどのように生じ、それを支える組織的な取組がどのように行われているか**を具体的に検討します。

第Ⅱ部では、急激な少子化を背景に園の「多機能化」が求められる中で、地域の実情に応じた独自の取組を模索する実践に注目します。制度的な要請に回答しながらも、**園自身の問いや使命感に根ざした、いわば園の「内発性」を伴う取組とは何か**を考えます。

園レベル、地域レベル、国レベルでの制度整備が、保育の内発性を阻害するものではなく、むしろそれを支え、条件を整える公共的基盤として機能するためには何が必要なのか。本シンポジウムでは、制度と実践をつなぐ新たな方向性を探ります。

開会挨拶 浅井 幸子（東京大学大学院教育学研究科教授 / CEDEPセンター長）

第Ⅰ部 保育者としてのよろこびや誇りを支える園組織のあり方とは

企画趣旨 野澤 祥子（東京大学大学院教育学研究科 CEDEP特任教授）

話題提供 木村 昭仁（龍雲寺学園バウデア学舎 学園長）

島田 裕香子（金沢星稜大学附属星稜幼稚園 園長）

稲垣 和江（犀川保育園 副園長）

砂走 勇紀（まことこども園 園長）

諸江 舞（大徳学園 保育教諭）

指定討論 高村 真希（金沢学院短期大学 准教授）

石田 善顕（文部科学省初等中等教育局幼児教育課長）

栗原 正明（こども家庭庁成育局保育政策課長）

横田 愛（こども家庭庁成育局成育基盤企画課長）

浅井 幸子

保育者としてのよろこびや誇りを支える園の取組の事例について話題提供を行い、議論を行います

第Ⅱ部 地域の実情に応じた園の取組を支える制度のあり方とは

話題提供 日吉 輝幸（平和こども園園長）

中西 淳也（日本保育協会 青年部長）

伊藤 悟（全国私立保育連盟青年会議 会長）

角地 剛（日本保育協会石川県支部 青年部長）

木村 崇仁（日本保育協会石川県支部 青年副部長）

指定討論 奥泉 敦司（金沢学院大学 准教授）

浅井 幸子 石田 善顕 栗原 正明 横田 愛 木村 昭仁

地域の実情に応じた園の取組と制度のあり方について現場から提言を行い、議論を行います

申し込み方法：

こちらのフォームからお申し込みください
<https://forms.gle/36RXwQSoLHXngXbK6>

